

Flex Floating License Quick Guide for Arm® Development Studio / DS-5 / RVDS

◆ 著作権

本書に記載されている情報の全部または一部、ならびに本書で紹介する製品は、著作権所有者の文書による事前の許可を得ない限り、転用・複製することを禁じます。

本書に記載されている製品は、Arm社が提供するArm社製ツールを対象としており、製品の市販性または利用の適切性を含め、暗示的・明示的に関係なく一切の責任を負いません。また、Arm社製ツールのバージョンアップに伴い、今後予告なしに本書内容を変更する場合があります。

本書は、対象製品の利用者をサポートすることだけを目的としています。

本書に記載されている情報は、Arm社が発行する以下ドキュメントを元としており、最新情報および詳細情報については使用する製品バージョンに適合したLicense Management Guideをご参照ください。

- [FlexNetfor ARM Tools License Management Guide v4.4](#)
- [ARM® DS-5 License Management Guide](#)
- [Licensing Arm Development Studio](#)

序章

この度は、弊社より Arm 社製ソフトウェアツールをご購入いただきありがとうございます。

このガイドブックは Arm® Development Studio / DS-5 / RVDS の導入に際し、ライセンスに関する速やかな立ち上げを支援します。本書では、いくつか用意されたライセンシング方法の中から、より簡単で確実にライセンス取得できる方法をご紹介します。

◆ 対象製品

本書は、以下Arm社製品を対象とし記載しております。

- Arm社製 Arm Development Studio
- Arm社製 Arm Development Studio (DS-5)
- Arm社製 ARM RealView Development Suite (RVDS)

目次

ライセンスインストールまでの流れ	4
1. シリアル番号の確認	5
2. Arm Connect サービスのアカウント取得	6
3. ソフトウェア製品のダウンロード	7
4. Flexnet ライセンスサーバソフトウェアのインストール	9
5. Arm 社製開発ツールのインストール	11
6. ライセンスサーバとなる PC の Hostid を確認	12
7. Arm 社 web サイトでライセンスファイルを取得	13
7.1 新規ライセンス取得	13
7.2 ライセンス Renewal(DS-5 のみ)	15
7.3 複数ライセンスのマージ	16
◆Arm Web システム上でマージする	16
◆手動でマージする	18
7.4 ライセンスのホストマシン変更(リホスト)	19
7.5 ライセンスファイル取得後の操作(ライセンスファイルの修正)	21
7.6 ライセンスファイル発行時の Arm Web システム上のエラー	22
8. ライセンスサーバ PC の設定	23
8.1 ライセンスサーバ・デーモンを開始	23
8.2 ライセンスサーバ・デーモンの停止	25
9. クライアント PC の設定	26
9.1 Arm License Manager を使用する方法	27
9.2 コントロールパネルの設定による方法 (Windows クライアントのみ)	33
9.3 コマンドラインを使用する方法 (Linux クライアントのみ)	34
10. Arm ライセンスに関するよくあるご質問	35
11. トラブルシューティング	36
11.1 エラーコードから診断する	36
11.2 さらなる確認事項	37
11.3 サポート問い合わせ	38

ライセンスインストールまでの流れ

この章は、お客様が製品のシリアル番号を入手されてから、PC へライセンスをインストールするまでの大まかなフローを説明します。詳細な操作手順は以降の各章をご参照ください。

(1) シリアル番号の確認

製品を受領後、パッケージの外箱に貼られたラベルや「シリアル発行証明書」(Arm Development Studio および DS-5) によって、シリアル番号を確認します。

(2) Arm Connect サービスのアカウント取得

※取得したアカウントは以降の手順(3)、(7)が必要です。

(3) ソフトウェア製品のダウンロード

Arm 社の web サイトにアクセスし、ソフトウェア製品をダウンロードします。

- Flexnet ライセンスサーバソフトウェア
- 使用する Arm 社製 開発ツール

※使用する Arm 社製開発ツールが旧 RVDS のバージョンの場合はインストールメディアをご用意ください。

(4) Flexnet ライセンスサーバソフトウェアをライセンスサーバ PC にインストール

(5) 使用する Arm 社製開発ツールをクライアント PC にインストール

(6) ライセンスサーバとなる PC の Hostid を確認

(7) Arm 社 web サイトでライセンスファイルを取得

(8) ライセンスサーバ PC の設定

(9) クライアント PC の設定

1. シリアル番号の確認

Arm 社のソフトウェアツールを使用するためには、PSN と呼ばれる製品のシリアル番号が必要となります。

PSN は、納品された シリアル発行証明書（図 1）あるいは Certificate of Authenticity(図 2)に、“シリアルナンバー:”、“Serial Number:” あるいは“PSN:”で記載されております。



図1. シリアル発行証明書

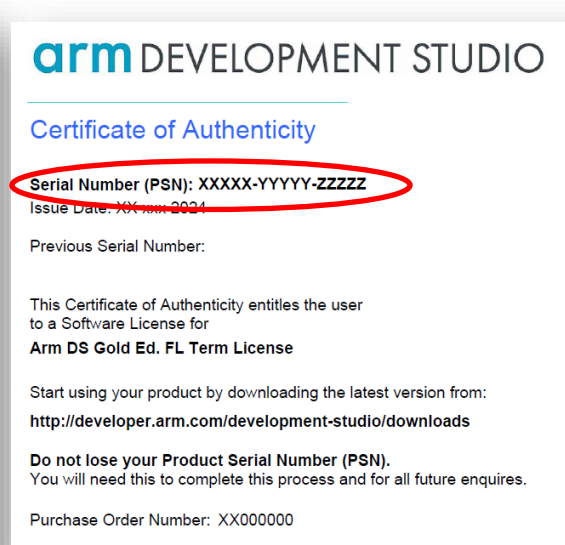


図2. Certificate of Authenticity

Perpetual(永久) ライセンスの保守契約更新を行ったお客様は、「**Arm ソフトウェア 保守に関する基本条件書**」に PSN が記載されております。

保守更新時に PSN の変更がない場合に限り [ライセンスの Renewal](#) 操作が必要になります。

◆ 箱付きのパッケージ形式で納品されている場合

ソフトウェア開発ツールの外箱に貼られたラベルに、以下のように印刷されています。

Serial# xxxxx-xxxxx-xxxxx (DS-5 の場合)

Serial# RSxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx (RVDS の場合)

Serial# xxxxx-xxxxx-xxxxx (最新の RVDS の場合)

※ 最新の RVDS のシリアルでは、パッケージとバージョンをあらわす"RSxxx-" という文字が付加されていないものがあります。

----- **注意** -----

IMPORTANT INFORMATION と記載された用紙が DS-5 パッケージ内に同梱されている場合、そのカードにシリアルが記載されている旨の記述がありますが、当該カードにはシリアルが印刷されておられませんので、ご注意ください。

2. Arm Connect サービスのアカウント取得

Arm 社は Arm Development Studio、および旧製品の DS-5、RVDS などのソフトウェア製品あるいは FlexNet サーバソフトウェアを Arm Web サイト上にて提供しております。

それらソフトウェアのダウンロードや FLEX 版ライセンスを取得するためには、事前に **Arm Connect サービスのアカウントを取得し、そのアカウントを利用してログインする必要があります**がございました。

アカウントの取得は以下の URL にアクセスし、右上隅にある人型のアイコンをクリックすると表示されるページで "Register" を選択することで開かれる登録ページから無償で行っていただけます：

<https://developer.arm.com/>

----- 注意 -----

上記アカウントをライセンス取得に使用される場合、取得したライセンスは、登録時のアカウントでのみ管理されます。

ご登録担当の方が長期不在になられる、あるいは数年ごとに担当者が変更となる場合は、担当の方が引き継ぎを行われる際にアカウント変更を行っていただくか、事前にグループで alias のメールアドレスを作成いただき、そのアカウントで Arm Connect サービスのアカウントを取得してご利用いただくことをお願いしております。

Arm 社は、ライセンスご登録時に将来的にお客様の部署等で管理可能なアカウントに設定されることをお勧めいたします。

アカウント登録に関する FAQ もご用意しております：

[Arm の web サイト developer.arm.com のアカウント登録について知りたい \(COM-A-19\)](#)

3. ソフトウェア製品のダウンロード

Arm 社は、常にソフトウェア製品の最新バージョンをご利用いただくことを推奨しており、その最新バージョンは以下 Web サイトからダウンロードすることが可能です。

◆ FlexNet サーバソフトウェアのダウンロード

FlexNet フローティング ライセンスをご利用になる場合、FlexNet サーバソフトウェアをダウンロードし、事前にサーバ PC へインストールしていただく必要がございます。

1. [License Server Management Software](#) のページから、サーバ PC の環境に合ったソフトウェアをダウンロードします。

----- 注意 -----

FlexNet フローティング ライセンスをご利用になる場合、Arm Compiler Tool バージョンにより、利用可能な FlexNet サーバソフトウェアの最小バージョンが異なります。

Arm Tool バージョンに対応する FlexNet サーバソフトウェアバージョンに関しては、以下をご参照ください：

- [ARM Tool バージョンに対応する FlexNet バージョン \(VER-G-01\)](#)

よって、ライセンスファイルが更新される度に、最新の FlexNet サーバソフトウェアバージョンをご利用いただくことを推奨しております。

◆ Arm Development Studio のダウンロード

1. [Arm Development Studio Downloads](#) のページから、ご使用になるバージョンの製品をダウンロードします。

----- 注意 -----

Arm Development Studio UBL Gold Version のように UBL の文字が入った製品は User Based Licensing という異なるライセンスの仕組みを持つ製品です。そのため、Node Locked ライセンスの場合は UBL の文字が含まれないリンク先の製品をダウンロードしてください。

◆ DS-5 のダウンロード

1. [DS-5 Downloads](#) のページから、ご使用になるバージョンの製品をダウンロードします。

◆ RVDS のダウンロード

1. [RealView Development Suite and Arm Developer Suite](#) のページから、ご使用になるバージョンの製品をダウンロードします。

----- 注意 -----

- ※ RVDS は各バージョンの Final Release の製品パッケージ、またはサービスパックのダウンロードのみ可能です。旧バージョン (RVDSv4.0 / v3.x / v2.x) のサービスパック (SPx と表記されたもの) をダウンロードしてご利用になられる場合は、お手持ちの製品インストールメディアをインストールいただいた上、サービスパックを適用してご利用ください。
-

◆ Arm Compiler 6 単体のダウンロード

1. [Arm Compiler 6 Downloads](#) のページから、ご使用になるバージョンの製品をダウンロードします。

----- 注意 -----

- ※ 機能安全版の Arm Compiler 6 をご使用になる場合は、以下からダウンロードいただけます。
[Arm Compiler for Functional Safety](#)

◆ Arm Compiler 5 単体のダウンロード

1. [Legacy Compiler Downloads](#) のページから、ご使用になるバージョンの製品をダウンロードします。

----- 注意 -----

- ※ 機能安全版の Arm Compiler 5 も上記 [Legacy Compiler Downloads](#) ページ内、“Arm Compilers for Functional Safety”の箇所からダウンロードいただけます。

----- 注意 -----

- 各ツールはバージョンによって 32bit/64bit 版が提供されている場合があります。環境にあったものをご使用ください。
- 一部製品についてはダウンロード時に製品のシリアルが必要になる場合があります。
- パッケージをダウンロードする際に、事前に Arm 社のコネクタサービスのアカウントでのログインが必要となる場合があります。⇒ 「[Arm Connect サービスのアカウントを取得](#)」をご参照ください。
- 上記ダウンロードページにある各ツールのインストール先の URL からダウンロードをお試しいただいた際に、以下のようなエラーが発生するなどしてツールのダウンロードに失敗する場合、Arm の web サイトの更新の影響を受けている可能性があります。

Something has gone wrong we could not retrieve the data

Try again later or contact support {Err.1401}

その場合、自身が必要とされるツールにより以下のいずれかの FAQ 内に記載した最新の方法をお試しください。

- 旧バージョンの Arm ソフトウェア開発ツールの入手について (VER-J-02)
https://www.dts-insight.co.jp/support/support_arm/?m=ARMFaqInfo&item=&id=1454
- 旧バージョンの Arm Compiler の入手について (VER-J-01)
https://www.dts-insight.co.jp/support/support_arm/?m=ARMFaqInfo&item=&id=1451

4. Flexnet ライセンスサーバソフトウェアのインストール

FlexNet サーバソフトウェアのインストールは、いくつかの EXE ファイルのコピーによって行われます。
(一般的な .EXE ファイルをダブルクリック後、インストーラが駆動する方式ではありません)

インストール方法はご利用サーバ PC の OS によって異なります。お客様の環境に合わせ、以下の手順に従ってください。

また、3 サーバ(リダンダントサーバ)の場合は、各サーバ PC にそれぞれ FlexNet サーバソフトウェアをインストールしてください。

※ コンピュータがライセンス管理サーバとしてだけ機能している場合は、Arm ソフトウェア製品 (Arm Development Studio、DS-5 および RVDS) をサーバ PC にインストールする必要はありません。

◆ Windows サーバの場合

- FlexNet サーバソフトウェアのダウンロードが完了したら、ファイルを解凍します。解凍すると、以下 5 つのプログラムと License Administration Guide(fnp_LicAdmin.pdf)のファイルが取り出せます。
 - armlmd - Arm ベンダーデーモン
 - lmgrd - FlexNet サーバデーモン
 - lmutil - FlexNet ライセンスユーティリティ
 - lmtools.exe - FlexNet ライセンスユーティリティのグラフィカルユーザインターフェイス
 - armlmdiag.exe - Arm ライセンスマネージャー診断ユーティリティ
- サーバ PC 上に適当なディレクトリ(例えば C:\FlexNet)を作成し、上記すべての FlexNet ファイルをコピーします。
2. のディレクトリのパスを、PATH の環境変数に追加します。
 - スタートメニュー->コンピュータを右クリックしてプロパティを選択し、システムの詳細設定をクリック->詳細設定タブを開き、環境変数ボタンを押します。
 - システム環境変数の箇所にある PATH または Path を選択します。
 - 続いて、編集(I)... ボタンをクリックするとウィンドウが開き、PATH の環境変数に設定されている項目がシステム変数の編集のウィンドウ内の変数値の箇所に表示されます。
この変数値の一番最後の項目の後にセミコロンを追加し、その後に 2. のディレクトリのパス(例 C:\FlexNet)を追加し OK ボタンをクリックします。

例) 変更後 >>

C:\Program Files\ARM\bin\win_32-pentium;...(中略)

...;C:\WINDOWS\System32\OpenSSH\C:\FlexNet

----- 注意 -----

PATH の環境変数の設定は様々なツールの動作に影響する可能性がありますので、変更の際には十分にご注意ください。

◆ Linux サーバの場合

1. FlexNet サーバソフトウェアのダウンロードが完了したら、ファイルをダブルクリックしてファイルを解凍します。解凍すると、以下 4 つのプログラムと License Administration Guide (fnp_LicAdmin.pdf) のファイルが取り出せます。
 - ・ armlmd - Arm ベンダーデーモン
 - ・ lmgrd - FlexNet サーバデーモン
 - ・ lmutil - FlexNet ライセンスユーティリティ
 - ・ armlmdiag.exe - Arm ライセンスマネージャー診断ユーティリティ
2. 解凍した FlexNet ファイルをサーバにコピーします。この時、コピー先のディレクトリが、環境変数 PATH に存在する必要があります。なお、リモートでマウントされたディスクにライセンスサーバソフトウェアをインストールすることは、ネットワークへの依存度が高まるため、お勧めしません。
3. サーバ PC で **makelinks.sh** のあるディレクトリに移り、以下のように入力します。

```
sh ./makelinks.sh
```

◆ サーバ PC (Windows) に既存の FlexNet サーバソフトウェアがインストールされている場合

旧 FlexNet サーバソフトウェアのライセンスデーモンのプロセスを以下の手順で停止および、FlexNet サーバソフトウェアのファイルの削除を行ってください。その後、前述の手順で新しい FlexNet サーバソフトウェアをインストールします。

1. サーバ PC の C:\FlexNet にある **lmtools.exe** を **管理者権限** で起動します。
2. **Start/Stop/Reread** タブを開き **Stop Server** ボタンをクリックして、ライセンスサーバをシャットダウンします。
サーバログを使用している場合は、ログにサーバがシャットダウンしたことが記録されます。
3. 旧 FlexNet サーバソフトウェアのフォルダ内のファイルをすべて削除します。
4. 新しい FlexNet サーバソフトウェアの各ファイルをコピーします。

5. Arm 社製開発ツールのインストール

[3章](#)で ArmTool (Arm Development Studio、DS-5 または RVDS) ソフトウェアのダウンロードが完了したら、ZIP ファイルを解凍後、インストーラに該当するファイルをダブルクリックしてインストーラの指示に従い、ソフトウェアをインストールしてください。

ソフトウェアはデフォルトでルートディレクトリへインストールされます。

Arm 社は、デフォルトのディレクトリへのインストールを推奨いたします。

6. ライセンスサーバとなる PC の Hostid を確認

Flex Floating 用ライセンスファイルは、ネットワークを介して任意のマシンでソフトウェア開発ツールを実行するためのライセンスです。Hostid はツールを駆動するクライアントマシンではなく、ライセンスサーバに対するものが要求されます。

FlexNet サーバソフトウェアをインストールしていない場合、以下の標準のオペレーティングシステムコマンドを使用して正しい Hostid を取得することができます。

OS	Command	Hostid Type	コメント
Windows	<code>ipconfig /all</code>	ETHERNET	Hostid は 12 桁の 16 進で 'Physical Address' として返されます。 エントリ前にハイフン '-' を除いてください
HP-UX	<code>echo ` /bin/uname -i16op dc</code>	LONG	Hostid は 8 桁の 10 進で返されます
Linux	<code>/sbin/ifconfig/eth0</code>	ETHERNET	Hostid は 12 桁の 16 進 'HWaddr' として返されます。 エントリ前にコロンを除いてください
Solaris	<code>/usr/bin/hosted</code>	LONG	Hostid は 8 桁の 16 進で返されます

既に FlexNet サーバソフトウェアをご使用のマシンにインストールしている場合には、

`lmutil lmhostid` コマンドを使用して Hostid を取得することもできます。

- 注意 -----
- ※ 3 サーバ(リダンダントサーバ)ライセンスの請求をする場合、3 台のマシンすべてに対して正しく、かつ、異なった Hostid が必要になります。
 - ※ Windows ライセンスサーバでは Hostid としてボリュームシリアル番号を使用することはできません。
 - ※ Linux をご利用時、Hostid を取得するために使用されるデバイスは eth0 に配置される必要があります。
 - ※ 仮想マシンをライセンスサーバとする動作やクラウド経由での動作について、Arm 社および弊社では、正式なテストは行っておりません。VMWare 等をライセンスサーバとして導入される場合、あるいはクラウド経由でのライセンス認証を行いたい場合はあくまでも自己責任においてご利用いただくこととなります。
このような環境上での使用における不具合が発生した場合には、サポート範囲外となりますことをあらかじめご承知おきください。
-

7. Arm 社 web サイトでライセンスファイルを取得

Arm Development Studio、DS-5 または RVDS を新規にご購入いただいた場合や、製品のアップグレードにより製品シリアルナンバーが変更となった場合には、以下の手順でライセンスを取得します。

7.1 新規ライセンス取得

1. 2 章で取得した Arm Connect サービスのアカウントで、以下 Arm Web サイトへログインしてください:

<https://developer.arm.com/support/licensing/generate>

2. **Serial Number:** に登録したい製品のシリアルナンバーを入力し、[Get License] をクリックしてください。

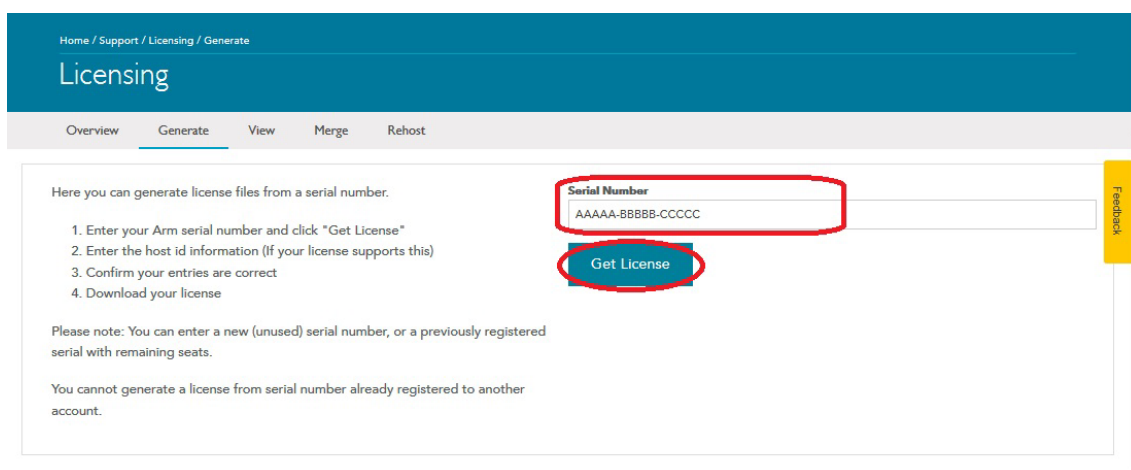


図 7-1-1. ARM Web サイト_Generate License 画面

- 続けて表示される画面(図 7-1-2)で表示される Product 名と License の Type を確認後、Hostid を入力してください。

Home / Support / Licensing / Generate

Licensing

Overview Generate View Merge Rehost

Details	
Serial Number	AAAAA-BBBBBB-CCCCC
Part	DSSPE-FA-40001
Type	Floating
Product	DS-5 PRO ED FAE FL DL LIC (1YR)
Available/Total	1/1
Used	0
Start date	
End date	
Support start date	
Support end date	

Quantity
Enter quantity

HostID Type 1
ETHERNET
Select Hostid Type
ETHERNET
LONG

HostID Type 3
Select Hostid Type

Generate

Rules
• Must be Hexadecimal value
• Ethernet Host Ids must be 12 digits long
• Long Host Ids must be 8 digits long

HostID 1
Enter Host Id

HostID 2
Enter Host Id

HostID 3
Enter Host Id

図 7-1-2. Hostid 入力

シングルサーバの場合は HostID Type1 のみ指定してください。3 サーバ(リダンダントサーバ)の場合は HostID Type は 1~3 のすべてについて指定が必要です。

ご利用の OS に合わせて、以下を選択してください。

- 登録される Hostid が 12 桁なら ETHERNET
- 登録される Hostid が 8 桁なら LONG

HostID のエリアへ [6 章](#)でご確認いただいた有効な Hostid を入力してください。

- [Generate]** ボタンをクリックしてください。
- “Please confirm that the entries above are correct prior to generating the license”のメッセージとともに入力した Hostid が画面に反映した状態で表示されますので、再度入力情報を確認し、ただしければ**[Confirm]** ボタンをクリックしてライセンスを発行してください。間違っていた場合は、**[Go Back]** ボタンをクリックして 3.の画面に戻り Hostid の修正ができます。
- [Download License]** ボタンをクリックすると、ライセンスファイルが画面に表示されます。画面右下の**[Download]** ボタンをクリックして、ライセンスファイルを任意の場所へ保存してください。

この後、[7.5 ライセンスファイル取得後の操作\(ライセンスファイルの修正\)](#)の内容に従ってライセンスサーバの環境に合わせた修正を行ってください。

7.2 ライセンス Renewal(DS-5 のみ)

DS-5 ライセンスには、ライセンスファイル内に保守終了日コードが含まれており、お客様はその保守終了日以前にリリースされたバージョンで DS-5 をご利用いただけます。

そのため、保守を更新いただきましたら、その後、以下手順でライセンスを Renewal(更新)していただくことで、常に最新バージョンのツールをご利用いただくことが可能となります。

----- 注意 -----

- ※ ライセンスファイル内に記載された保守終了日より後にリリースされた DS-5 バージョンはご利用いただけません。ビルド実行時にエラーとなります。
- ※ ライセンスファイル内に記載された保守終了日以前にリリースされた DS-5 バージョンは保守終了後も引き続きそのライセンスファイルでご利用いただけます。

1. 該当ライセンス新規取得時と同じアカウントを使用し、以下 Arm Web サイトへログインしてください：
<https://developer.arm.com/>
2. 以下の URL にアクセスして **Serial Number:** に Renewal したい製品のシリアルナンバーを入力し、[Get License]をクリックしてください。
<https://developer.arm.com/support/licensing/generate>
3. 表示される Product 名と Support Start /End Date を確認後、[Renew]ボタンをクリックしてください。(図 7-2-1)

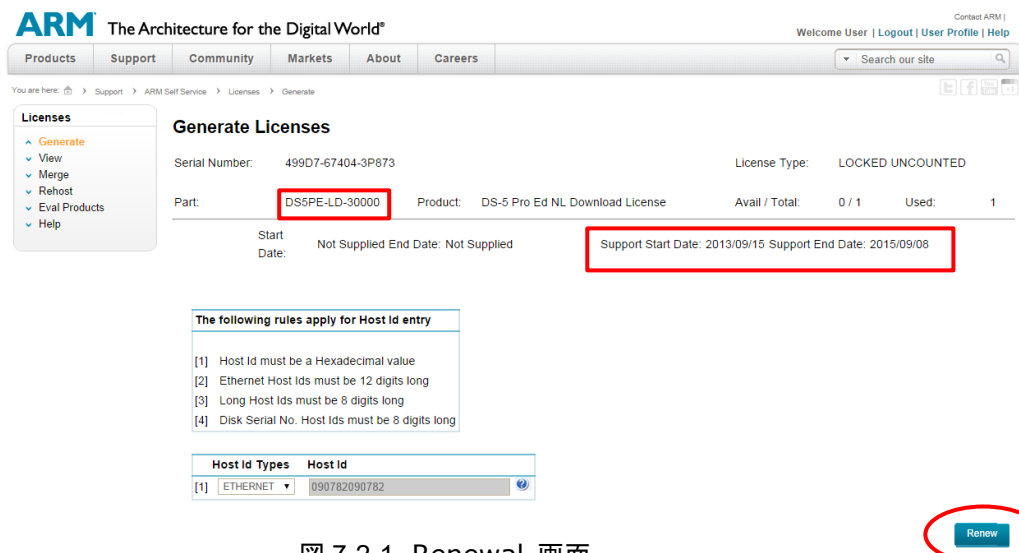


図 7-2-1. Renewal 画面

4. [VIEW]ボタンをクリックすると、ライセンスファイルが画面に表示されます。画面右上の[Save]ボタンをクリックして、ライセンスファイルを任意の場所へ保存してください。

この後、[7.5 ライセンスファイル取得後の操作\(ライセンスファイルの修正\)](#)の内容に従ってライセンスサーバの環境に合わせた修正を行ってください。

7.3 複数ライセンスのマージ

同一 Hostid のライセンスは、マージして 1 つのライセンスファイルにすることが可能です。マージ方法は次の 2 通りあります。

◆ Arm Web システム上でマージする

1. ライセンス新規取得時と同じアカウントを使用し、以下 Arm Web サイトへログインしてください：
<https://developer.arm.com/support/licensing/merge>

----- 注意 -----

Arm Web システム上でライセンスファイルのマージを行う場合、同一アカウントによって登録された同一 Hostid のライセンスのみマージ可能です。

(新規ライセンス登録後、引き続きマージを行う場合は、再ログイン不要です。)

2. 以下 Merge Licenses 画面が表示されます。

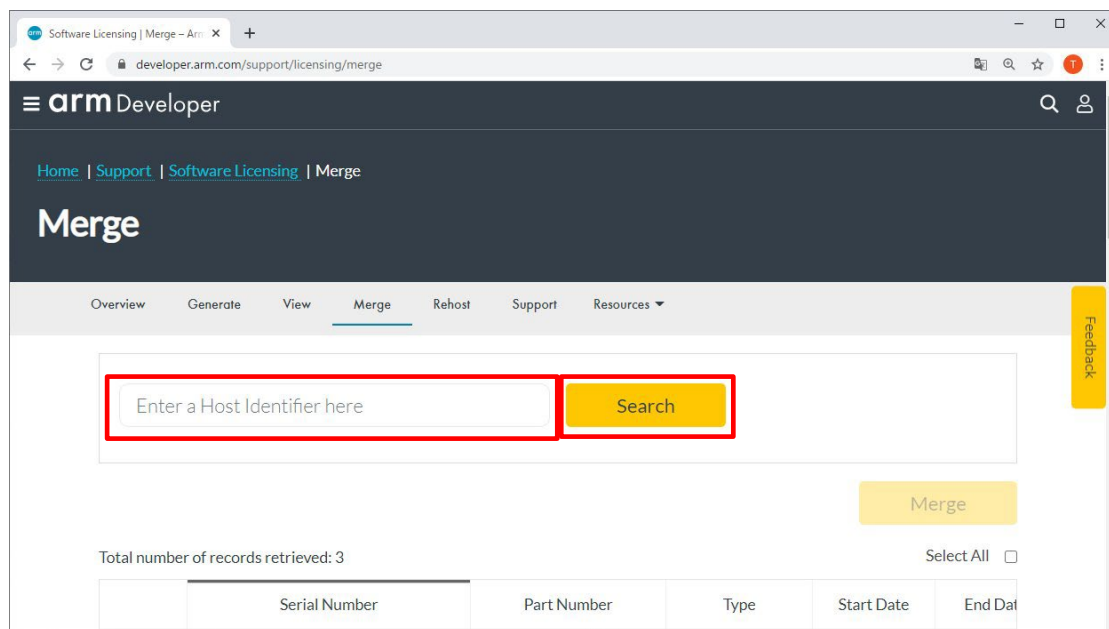


図 7-3-1. マージしたいライセンスサーバの Hostid を入力

3. “Enter a Host Identifier here”と表示された欄にマージしたいライセンスサーバの Hostid を入力し、[Search] ボタンをクリックしてください。(図 7-3-1)
- 同一 Hostid へ登録済みのライセンスが多数(10 本以上)ある場合、ライセンスがすべて表示されるよう画面一番下のプルダウンメニューから、1 画面に表示する本数を変更して、1 ページ内に表示することで次のマージの操作が一度で行えるようになります。(図 7-3-2)
- 表示ページが異なるライセンスは、一度にマージできません。

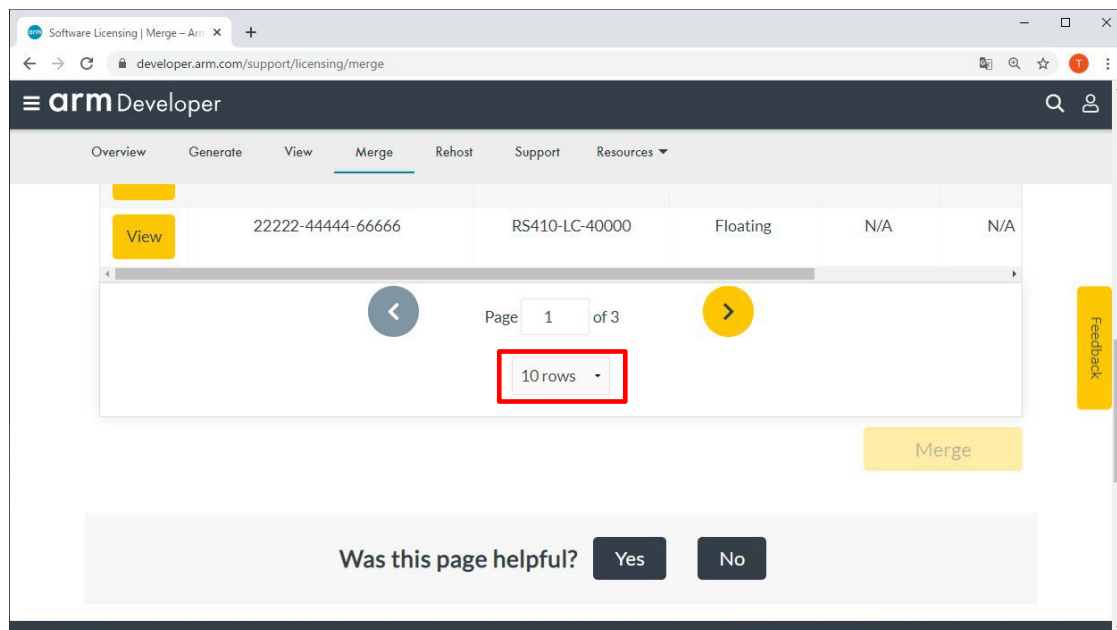


図 7-3-2. 一画面に表示するライセンス数の変更

4. ライセンス情報右上に表示される”Select All”をクリックして画面に表示されているすべてのライセンスをまとめて選択するか、マージしたい製品の右端にある Merge 欄のチェックボックスを個別にチェックしてから、[Merge] ボタンをクリックします。(図 7-3-3)

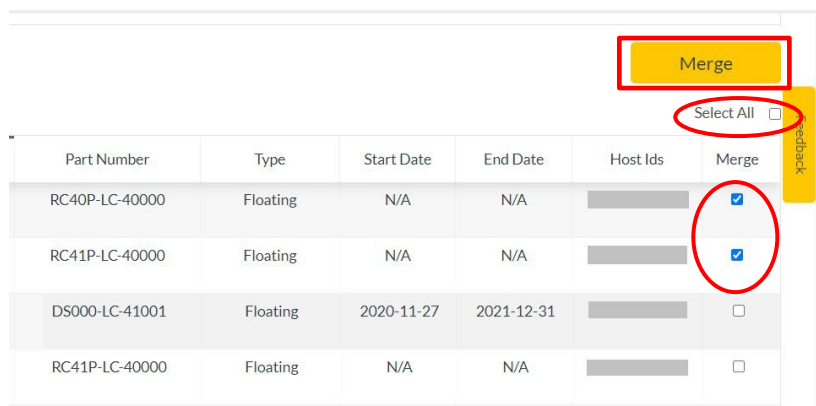


図 7-3-3. マージするライセンスの選択

5. **Merged License contents** 画面が表示されるので[Save] ボタンをクリックし、ライセンスファイルを任意のフォルダへ保存してください。

この後、[7.5 ライセンスファイル取得後の操作\(ライセンスファイルの修正\)](#)の内容に従ってライセンスサーバの環境に合わせた修正を行ってください。

◆手動でマージする

以下の場合、Arm Web システムでライセンスのマージを行うことができませんので、手動でマージを行います。

- ・ **ライセンス登録時のアカウントが異なる場合**
 - ・ **Arm Web システム上で、マージしたいライセンスが検出されない場合**
- 上記の場合は、以下 FAQ を参照し、手動でライセンスをマージしてください。
[フローティングライセンスのマージ方法について\(LIC-C-10 \)](#)

この後、[7.5 ライセンスファイル取得後の操作\(ライセンスファイルの修正\)](#)の内容に従ってライセンスサーバの環境に合わせた修正を行ってください。

7.4 ライセンスのホストマシン変更(リホスト)

Arm Web システム上でライセンスのリホストを行う場合、サイトへのアクセスには対象ライセンスを新規取得された時と同一のアカウントによるログインが必要です。

- 注意 -----
- ※ お客様のアカウントにより取得されたライセンスは、当社ではリホストできませんのでご了承ください。
 - ※ 異なるアカウントによってライセンスを検索された場合、該当ライセンスは表示されません。
-

1. 該当ライセンス新規取得時と同じアカウントを使用し、以下 Arm Web サイトへログインしてください：
<https://developer.arm.com/support/licensing/rehost>
2. **Rehost License Request (Disclaimer)**(ライセンス要求の再発行(免責))が表示されますのでご確認後、承諾いただける場合は右下に表示される[**I Accept**] ボタンをクリックしてください。
3. **Rehost** 画面にて、**Serial Number** または **Hostid** 欄に対象となる製品の情報を入力し、[**Search**] ボタンをクリックしてください。(図 7-4-1)
Hostid を入力される場合は、移行元となるライセンスサーバの **Hostid** を”Enter a Host Identifier here”と表示された箇所に入力してください。

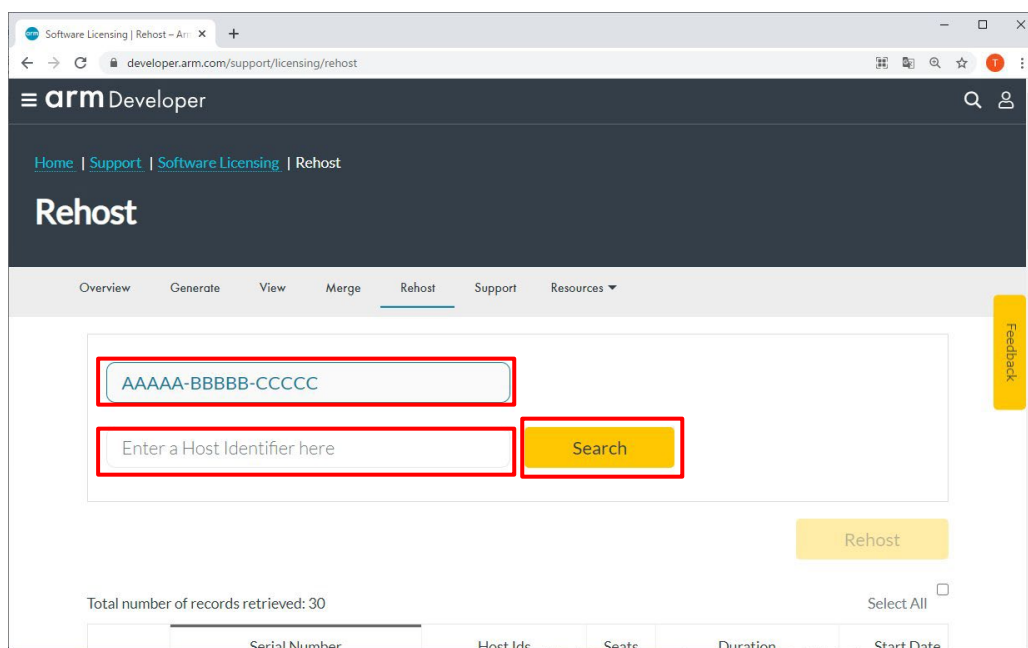


図 7-4-1. ライセンス情報の検索

4. ライセンス情報右上に表示される”Select All”をクリックして画面に表示されているすべてのライセンスをまとめて選択するか、リホストしたい製品の右端にある Rehost 欄のチェックボックスを個別にチェックしてから、[Rehost]ボタンをクリックします。(図 7-4-2)

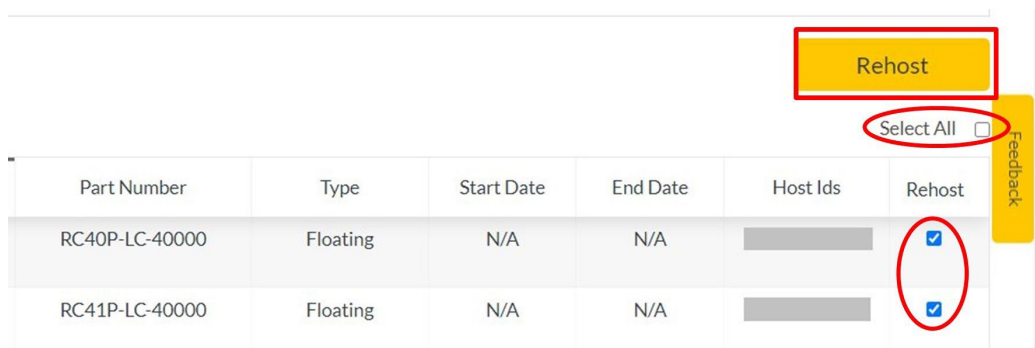


図 7-4-2. リホスト対象製品の選択

5. **Enter your reason for rehosting** と書かれたウィンドウが開きますので、最上部のドロップダウンリストに表示される項目から、理由を選択します。
 続いて、HostID Type1 欄で ETHERNET を選択し、HostID 1 の欄にリホスト先となる新しい hostid を入力した後、[Rehost] ボタンをクリックしてください。(図 7-4-3)

図 7-4-3. リホスト情報の入力

ドロップダウンリストで選択可能な理由には以下があります。適切なものを選択してください。

- ・Moving to a new server : ライセンスサーバの変更
- ・Moving to a new workstation : ノードロックライセンス時のクライアント PC の変更
- ・Mistyped the host identifier (s) : Hostid の誤入力

6. Your rehost request was automatically approved and processed.と表示されたらリホストは完了です。

<https://developer.arm.com/support/licensing/view>

等のメニューからリホスト済みのあたらしいライセンスファイルを手いいただけます。

ホストマシン変更に伴い、古いライセンスファイルは必ず破棄をお願いいたします。

7.5 ライセンスファイル取得後の操作(ライセンスファイルの修正)

Arm Web システムから取得したライセンスは、デフォルトではライセンスサーバと通信を行う際に使用する明示的なライセンスサーバの IP アドレス(またはサーバ名)やポートの指定がされていません。そのため、必要に応じて、お客様の環境に合わせて以下のような修正を加えてください。

1. ライセンスファイルをテキストエディタで開きます。ライセンス修正前、SERVER 行は以下のようにデフォルトの表記になっています。

SERVER `this_host` 123456789ABC (登録したサーバ PC の Hostid)

2. ライセンスファイル内の SERVER 行を次のように修正してください。

例) `hostname: 10.20.123.456` (必要があれば。通常 `this_host` のままでも動作します)

`Hostid: 123456789ABC` (Hostid は変更不可)

`ポート番号: 8224`

上記の指定を行いたい場合、SERVER行は以下のように修正します：

SERVER `10.20.123.456` 123456789ABC `8224`

※`hostname`の箇所はライセンスサーバ名でも構いません。

➤ 参照

- ・ [hostname について \(LIC-A-08\)](#)
- ・ [FLEXIm が使用するポート番号について \(LIC-D-06\)](#)

7.6 ライセンスファイル発行時の Arm Web システム上のエラー

お客様のアカウントで Arm Web サイトへアクセスし、ライセンス管理(新規発行や Renewal、ライセンスファイルのマージなど)を行う場合に、該当するシリアル番号や Hostid を入力した際、下記いずれかのエラーメッセージが表示される場合があります。

- ◆ Renewal 時 : “That serial number is registered to another account.”
- ◆ View 時 : “No information matches criteria specified in search”
- ◆ Marge 時 : “No Licenses found matching criteria specified”
- ◆ Rehost 時 : “No Licenses found matching criteria entered”

【原因】

該当ライセンスを新規取得時に、現在ログインされたアカウント以外のアカウント(当社アカウントあるいは御社内の別アカウント)で取得された可能性があります。

【解決法】

登録済みのライセンスを管理するアカウントを変更することにより、この問題を回避できます。

以下 FAQ をご参照いただき、該当ライセンスのアカウントを変更してください。

- ・ [登録済みのライセンスを管理するアカウントを変更する方法 \(LIC-A-65\)](#)

Arm 社によるアカウント変更が完了次第、当社あるいは Arm 社からお客様へ再度ご連絡いたします。その後、移行先の新しい Arm アカウントを使用して Arm Web サイトへログインし、再度お客様ご自身で該当ライセンスの管理操作を行ってください。

◆ 新規ライセンス取得時:

“All seats have been used for this serial number. No more licenses may be created”

【原因】

該当ライセンスはログインいただいた Arm アカウントによって、すでに取得済みの状態です。

【解決法】

ライセンスファイルを紛失するなどして該当ライセンスのライセンスファイルを再度入手したい場合、以下サイトへアクセスしてください。

<https://developer.arm.com/support/licensing/view>

シリアル番号を入力し、[Search]ボタンをクリックすると、該当ライセンスが表示されますので[+] -> [VIEW]ボタンをクリックすると、ライセンスファイルが画面に表示されます。画面上の[Save]ボタンをクリックして、ライセンスファイルを任意の場所へ保存してください。その後、[7.5 ライセンスファイル取得後の操作\(ライセンスファイルの修正\)](#)に従って修正を行ってからご使用ください。

8. ライセンスサーバ PC の設定

8.1 ライセンスサーバ・デーモンを開始

4章でインストールした FlexNet サーバソフトウェアを起動します。

FlexNet サーバソフトウェアを起動する方法は、使用するプラットフォームによって異なります。

3サーバ(リダンダントサーバ)の場合は以下の操作を3台のサーバすべてで行い、それぞれでライセンスサーバ・デーモンを起動してください。

◆ Windows サーバ PC の場合

1. ライセンスサーバ PC にインストールしたフォルダ(例:C:\FlexNet)にある **lmtools.exe** を管理者権限で起動します。
2. **Service/License File** タブ内の “**Configuration using Services**” オプションを選択してください。このとき、下段の枠内に “**FLEXlm Service 1**” と表示されているか確認して下さい。
 - 表示がない場合は、手順“3” に進んで下さい。
 - 表示がある場合は、手順“4” に進んで下さい。

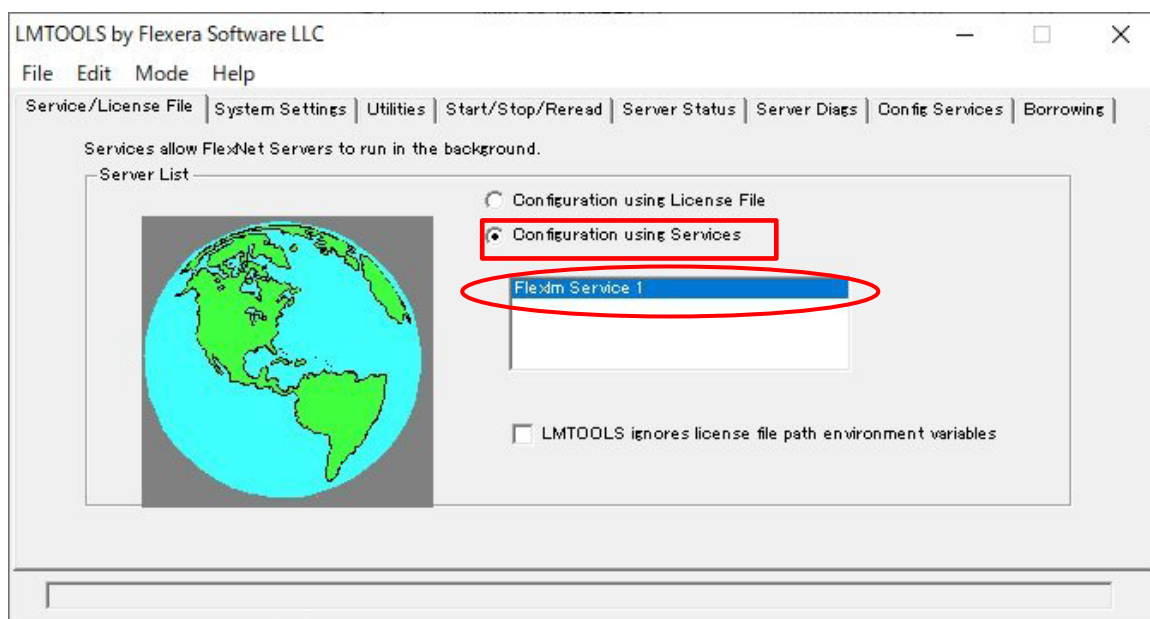


図 8-1-1. Service/License File タブ

3. **Configure Services** タブを選択し、“**Service Name**” 欄に “**FLEXlm Service 1**” を入力して下さい。

4. **Configure Services** タブを選択し、下記フィールドにそれぞれ、要求されるファイルのパス名を入力するか、**Browse** ボタンでファイルを選択してください。
- Path to the lmgrd.exe file.....lmgrd.exe
 - Path to the license file.....ライセンスファイル
 - Path to the debug log file.....ログファイル(これはサーバの動作を記録として残すファイルです。障害発生時の解析の為に指定することを推奨します。)

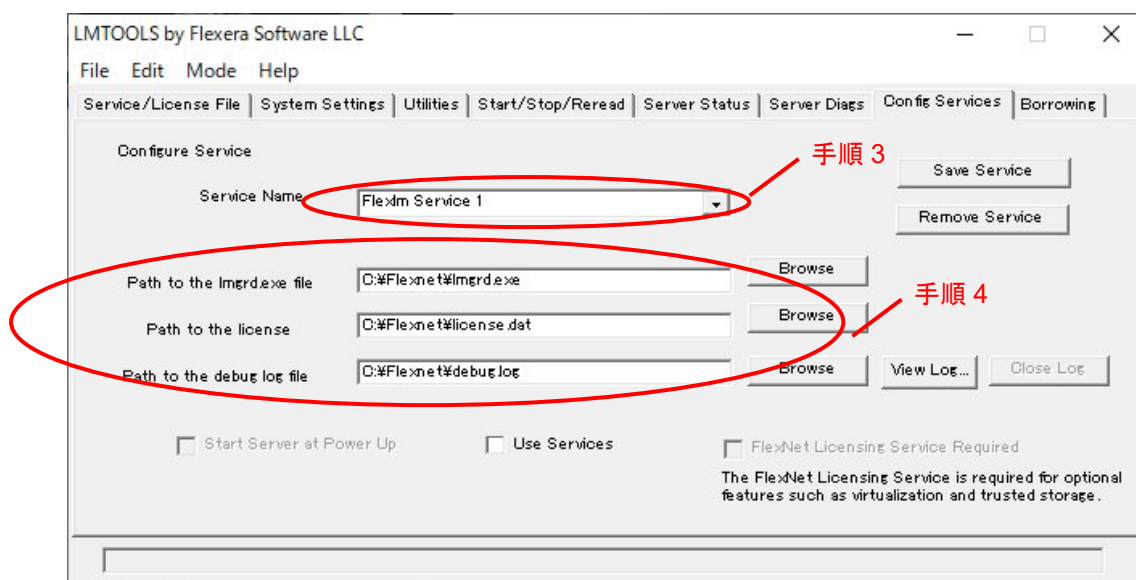


図 8-1-2. Configure Services タブ

5. サーバ PC の起動時に自動的にサーバソフトウェアを実行させたい場合は、"**Use Services**"チェックボックスをクリックし、"**Start Server at Power Up**" チェックボックスをクリックしてください
6. "**Save Service**" ボタンをクリックし、確認のウィンドウが表示されたら、"はい"を選択して[FLEXlm License Manager] サービスの保存を確定します。
7. **Start/Stop/Reread** タブをクリックし、[FLEXlm License Manager] サービスが選択されていることを確認し、"**Start Service**" ボタンをクリックしてください。これで、**ライセンスサーバ・デーモンが起動されます。**

◆ Linux サーバ PC の場合

ライセンスサーバソフトウェアをインストールしたディレクトリに移動後、以下のコマンドを入力します。

```
nohup lmgrd -c license_file_name -l logfile_name &
```

license_file_name ライセンスファイルのパス名
logfile_name ログファイルのパス名

ライセンスサーバの起動後は、以下を入力することによってライセンスサーバからの最新出力を表示させることができます。

```
tail -f logfile_name
```


8.2 ライセンスサーバ・デーモンの停止

新しいライセンスファイルを使用したり、ライセンスファイルにオプションファイル登録を追加するために変更する場合、ライセンスサーバ・デーモンのシャットダウンが必要です。ライセンスサーバ・デーモンの停止方法は、使用しているプラットフォームによって異なります。

----- 注意 -----
Windows ではタスクマネージャ、Linux では kill -9 コマンドを使用して、ライセンスサーバ・デーモンを終了しないで下さい。プロセスが正常に終了しないことがあり、サーバの再起動時に問題が発生する可能性があります。サーバを強制的にシャットダウンする必要がある場合には、必ず Imgrd を停止してから armlmd を停止します。

◆ Windows サーバ PC 上での停止

グラフィカルユーザーインターフェース(GUI)を使用して、Windows 上でライセンスサーバ・デーモンを停止するには、次の手順に従います。

1. ライセンスサーバ PC にインストールしたフォルダ(例:C:\FlexNet)にある **Imtools.exe** を起動します。
 2. **Start/Stop/Reread** タブをクリックします。
 3. “**Stop Server**”ボタンをクリックして、FlexNet サーバソフトウェアをシャットダウンします。
 4. サーバログを使用している場合は、ログに FlexNet サーバソフトウェアをシャットダウンしたことが記録されます。
- ※ GUI ではなくコマンドラインを使用する場合は、「Linux サーバ PC 上での停止」を参照してください。

◆ Linux サーバ PC 上での停止

ライセンスサーバソフトウェアをインストールしたディレクトリに移動後、以下のコマンドを入力します。

Imutil lmdown -q -c license_file_name

license_file_name サーバの起動に使用したライセンスファイルの完全修飾パス名を指定

◆ 3 サーバ(リダンダントサーバ)の場合

3 台のライセンスサーバを使用する(リダンダントサーバ)の場合、以下いずれかを使用してサーバソフトウェアをシャットダウンすると、指定されたライセンスファイルに列挙されたサーバすべてで、1 分経過後にサーバソフトウェアがシャットダウンされます。

Imtools.exe GUI または、コマンドライン上での **Imutil lmdown**

9. クライアント PC の設定

クライアント PC 側の設定は、以下の設定が完了していることが前提です。

- Arm Tool (Arm Development Studio / DS-5 / RVDS) がクライアント PC へインストールされている(5章)
- 1 台または複数台のサーバ PC 上でライセンスサーバ・デーモンが開始されている(8章)

クライアント PC からライセンスサーバを参照する方法は、クライアント PC のプラットフォームとライセンスサーバの設定(シングル / 3 サーバ)によって異なります。

クライアント PC から次のうちいずれか 1 つの方法でライセンスサーバを参照するよう設定してください。:

- **Arm License Manager を使用する方法**

「Arm License Manager」は、Eclipse で実行されるグラフィカルツールです。このツールは、Arm Development Studio および DS-5 の Arm ライセンス環境の設定に役立ちます。

- **コントロールパネルの設定による方法 (Windows クライアントのみ)**

- **コマンドラインを使用する方法 (Linux クライアントのみ)**

----- 注意 -----
ライセンスマネージャを使用する場合、シングルサーバライセンスのみライセンスを設定できます。
3 サーバ(リダンダントサーバ)のライセンス設定には、使用しているプラットフォームに応じてコントロールパネルまたはコマンドラインを使用してください。

◆**補足事項:**

以降の項目では、ライセンスの参照先に関する設定についてのみ記載しています。

Arm DS や DS-5 のライセンスを使用して、makefile やバッチファイル経由でコマンドラインからコンパイラを使用する場合、追加の環境変数の設定が必要になる事があります。

詳細については、Arm の web サイトにある以下の情報を参照してください。

・**Product and toolkit configuration for FlexNet Publisher (FNP) licenses**

<https://developer.arm.com/documentation/ka004977/latest/>

9.1 Arm License Manager を使用する方法

シングルサーバライセンスコンフィギュレーションに対してのみ Arm License Manager を使用してライセンスの設定ができます。

Arm License Manager で Arm Development Studio または DS-5 の Arm ライセンス環境を設定するには、次の手順に従います。

◆ Arm Development Studio の場合

Arm Development Studio の IDE 初回起動時、以下の 3.の[製品セットアップ] のダイアログボックスが表示されることがあります。その場合、使用する製品の選択を要求されますので、以降の手順に従ってライセンスの設定を行ってください。

一度ライセンスを登録したことのある環境でライセンスファイルの更新などによって再登録を行う場合は 1 の手順から操作を行ってください。

1. Arm Development Studio を起動し、IDE 上のメニュー[ヘルプ]-> [Arm License Manager...]を選択し、[Preference]ダイアログボックスを表示します。
2. [加算]と表示されたアイコンをクリックして、[製品セットアップ]ダイアログボックスを表示します。

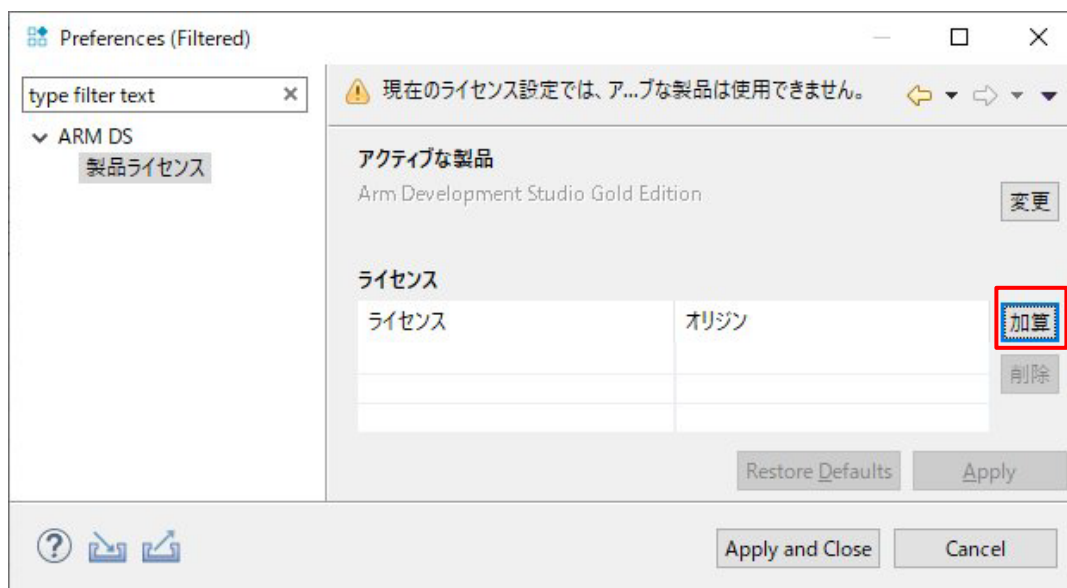


図 9-1-1. [Preference]ダイアログボックス

3. **[製品セットアップ]ダイアログボックス**で**[Add FlexNet product license]**を選択し、ウィンドウ下部にある**[Next >]**をクリックします。

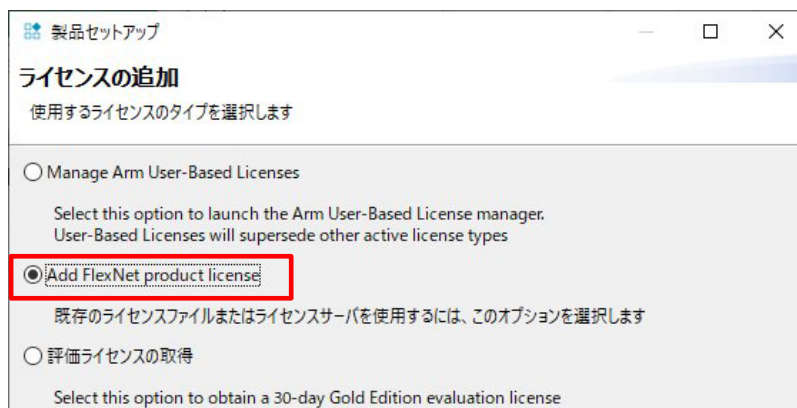


図 9-1-2. [製品セットアップ]ダイアログボックス

- ※古いバージョンの場合は、**[製品セットアップ]ダイアログボックス**で**[製品ライセンスの追加]**を選択し、ウィンドウ下部の**[Next >]**をクリックします。

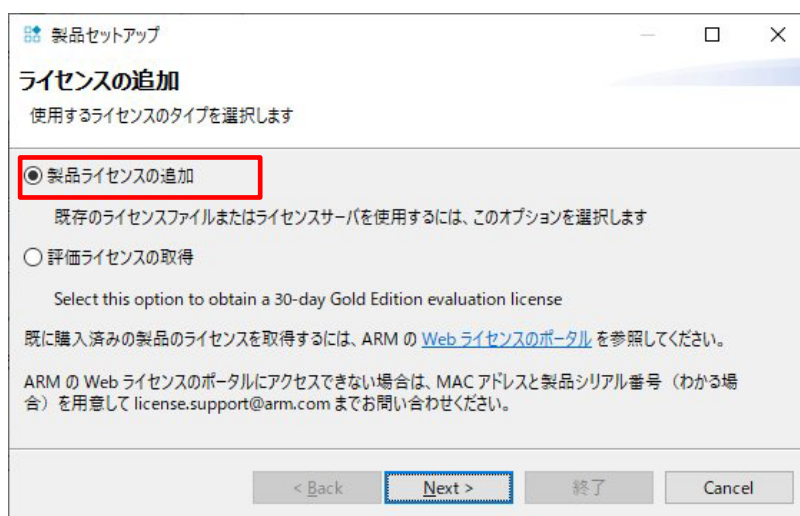


図 9-1-3. [製品セットアップ]ダイアログボックス(旧バージョン)

4. [既存のライセンス情報の入力]ダイアログボックスが表示されます。
 [ライセンスサーバ]を選択して左側のフィールドにポート番号を入力します。27000 ~ 27009 (最初と最後のポート番号を含む)の範囲にあるデフォルトのサーバポートを使用している場合は、ポート番号を省略できます。右側のフィールドにフローティングライセンスサーバのホスト名または IP アドレスを入力し、[終了]をクリックします。

図 9-1-4. [ライセンス情報の入力]例

5. 正しくライセンスが登録されると、[設定]ダイアログボックスにライセンスに応じて、アクティブな製品(エディション)の情報が表示されます。
 設定したライセンスの情報は以下のファイルに保存され、ライセンスサーバの参照に使用されます。

C:\%Users%\ユーザ名\AppData\Roaming\arm\ds\licenses\%ポート_ホスト名(または IP アドレス).lic

図 9-1-5. [アクティブな製品]表示例

6. **[OK]**をクリックして、設定を完了します。

複数のエディションの製品情報が含まれるライセンスファイルをライセンスサーバ・デーモンが参照している場合、**[設定]**ダイアログボックス右上にある**[変更]**ボタンから、そのクライアント PC で使用するエディションを切り替えることもできます。

◆ DS-5 の場合

1. Eclipse for DS-5 を起動し、IDE 上のメニュー[ヘルプ]-> [Arm License Manager...]を選択し、[Arm License Manager]ダイアログボックスを表示します。
2. [ライセンスの追加 (Add License)]を選択して、[ライセンスの追加 (Add License)]ダイアログボックスを表示します。

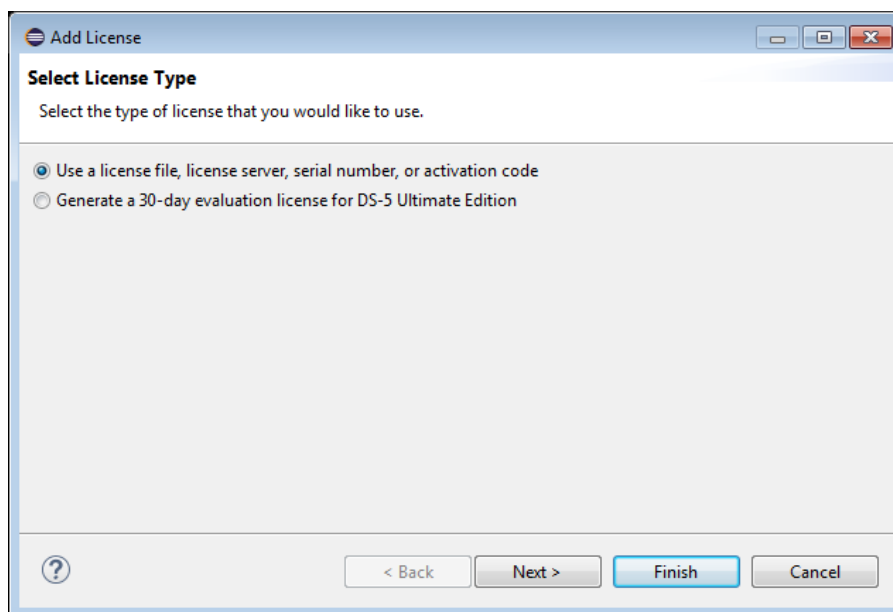


図 9-1-6. [Add License]ダイアログボックス

3. [ライセンスタイプの選択]ページで、[ライセンスファイル、ライセンスサーバ、シリアル番号、またはアクティブ化コードの使用]を選択します。次に、[次へ]をクリックします。

4. [新しいライセンスの取得] ページで[既存のライセンスファイルまたはライセンスサーバアドレスを使用する]を選択し、[次へ]をクリックします。

[既存のライセンス情報の入力] ページが、以下の図のように表示されます。

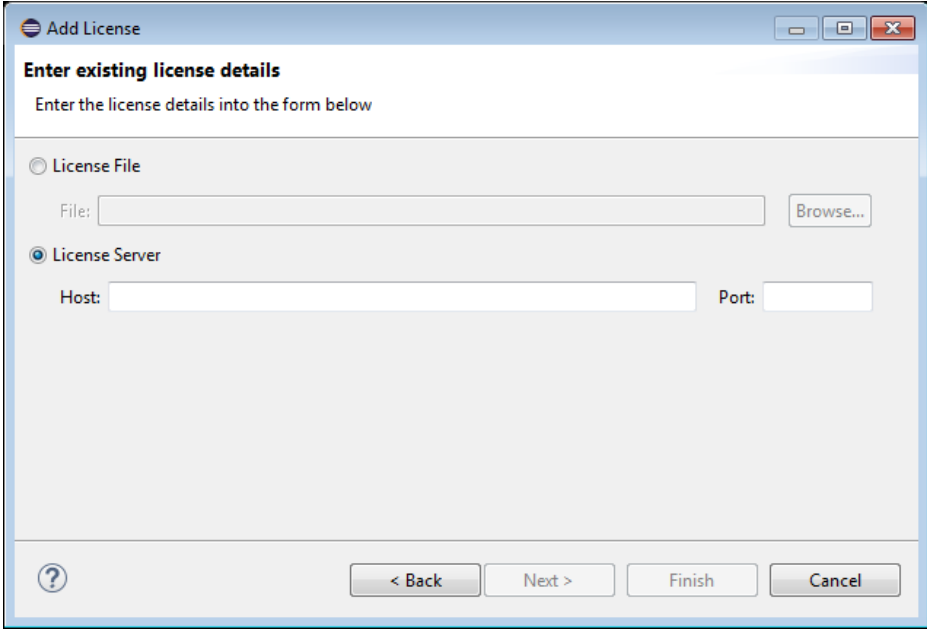


図 9-1-7. [既存のライセンス情報の入力] ページ

5. [ライセンスサーバ]を選択して、フローティングライセンスサーバを指定します。
6. [ホスト]フィールドにフローティングライセンスサーバのホスト名を、
[ポート]フィールドにポート番号を入力します。27000 ~ 27009(最初と最後のポート番号を含む)の範囲にあるデフォルトのサーバポートを使用している場合は、ポート番号を省略できます。
7. ライセンスソースを追加したら、[終了]をクリックします。
8. [Arm License Manager]ダイアログボックスのサーバライセンスの一覧に新しいライセンスサーバが追加されたことを確認してください。

9.2 コントロールパネルの設定による方法 (Windows クライアントのみ)

サポート対象の Windows 環境では、コントロールパネルを使用して環境変数を設定できます。

前提条件 : システム環境変数を設定するには管理者特権が必要です。

1. [スタート] -> [コントロールパネル]をクリックしてコントロールパネルを開きます。
2. コントロールパネルの[システム]アイコンをダブルクリックします。このアイコンを簡単に見つけるには、コントロールパネルの表示をクラシック表示に切り替えます。
3. Windows 2000 または XP の場合は[詳細設定]タブ、Windows 10, Windows 7 および Windows の場合は[システムの詳細設定]タスクをクリックし、[環境変数]ボタンをクリックします。
4. 新しいシステム環境変数 **ARMLMD_LICENSE_FILE** を作成し、値を設定します。
この値には、**port_num@hostname** という形式の有効な情報を含める必要があります。

上記環境変数に設定する、ホスト名(hostname)とポート番号(port_num)は、ライセンスサーバの情報です。

hostname の箇所はライセンスサーバの IP アドレスまたはライセンスサーバ名を指定します。

port_num の箇所はライセンスサーバで参照しているライセンスファイルの **SERVER** 行に以下のように記述されている情報と同じポート番号を指定します。

SERVER this_host host_id port_num

詳細は、[7.5 ライセンスファイル取得後の操作\(ライセンスファイルの修正\)](#)を参照してください。

----- 注意 -----

- ※ ARMLMD_LICENSE_FILE の長さは 260 文字以下にする必要があります。
- ※ サーバで 27000 ~ 27009 の範囲のデフォルトのポートを使用した場合、環境変数ではポート番号を省略できますが、サーバ名の前に '@' 記号を含める必要があります。
例えば @my_server のように入力します。

以下に例を示します。

- シングルサーバフローティングライセンスを使用している場合:
8224@my_server
- 複数のフローティングライセンスサーバを参照する場合:
8224@my_serverA;8224@my_serverB;@my_serverC
 - ・ マスタサーバが最初に表示されます。この例では、**my_serverA** です。
 - ・ SERVER 行でポート番号を指定しなかった場合は、**my_serverC** のエントリのように前にポート番号は付けません。

9.3 コマンドラインを使用する方法 (Linux クライアントのみ)

Linux クライアントでは、**ARMLMD_LICENSE_FILE** 環境変数を使用してライセンス環境を設定できます。

ARMLMD_LICENSE_FILE に対してライセンスサーバと通信する際に用いる **port_num@ライセンスサーバの IP アドレス(またはホスト名)** を設定します。

----- 注意 -----

サーバで 27000 ~ 27009 の範囲のデフォルトのポートを使用した場合、環境変数ではポート番号を省略できますが、サーバ名の前に '@' 記号を含める必要があります。
例えば @my_server のように入力します。

サーバからライセンスを取得するように Linux クライアントを設定するには、シェルコマンドを使用するか、**.frlxlmrc** ファイルを編集します。

◆ シェルコマンドを使用した **ARMLMD_LICENSE_FILE** の設定

csh または tcsh を使用している場合は、次のように入力して単一サーバの環境変数を設定できます。

```
setenv ARMLMD_LICENSE_FILE 8224@my_server
```

bash または sh を使用している場合は、次のように入力します。

```
ARMLMD_LICENSE_FILE=8224@my_server
```

```
export ARMLMD_LICENSE_FILE
```

複数のフローティングライセンスサーバを参照するには、次の値を環境変数に追加します。例えば、csh または tcsh では次のように入力します。

```
setenv ARMLMD_LICENSE_FILE
```

```
8224@my_server1:8224@my_server2:@my_server3
```

この例では、デフォルトのポート番号が使用されているため、**my_server3** のポート番号は省略されています。どのような場合でも、上記の環境変数設定を起動スクリプトに追加して、ログイン時にライセンスが自動的に設定されるようにすることを推奨します。

◆ **.frelxlmrc** ファイル内の **ARMLMD_LICENSE_FILE** の設定

ホームディレクトリの **.frelxlmrc** ファイルを編集して、以下の行を追加し、クライアントライセンスを設定できます。

```
ARMLMD_LICENSE_FILE=value
```

ここで、**value** は環境変数に設定する値、例えば **8224@my_server** です。

10. Arm ライセンスに関するよくあるご質問

- [End User License Agreement における「使用可能なユーザー」の定義 \(COM-A-07\)](#)
- [ARM ソフトウェアツールのサポート・プラットフォームを教えてください \(COM-A-06\)](#)
- [RVDS のライセンスで旧バージョンの RVDS/ADS を使用することが可能ですか \(LIC-A-06\)](#)
- [DS-5 のライセンスで RVDS を使用することが可能ですか \(LIC-A-05\)](#)
- [製品をバージョンアップした場合、サーバソフトウェアを入れ替える必要はありますか \(LIC-C-08\)](#)
- [ARM Tool バージョンに対応する FlexNet バージョン \(VER-G-01\)](#)
- [登録済みのライセンスを管理するアカウントを変更する方法 \(LIC-A-65\)](#)
- [hostname について詳しく教えてください \(LIC-A-08\)](#)
- [hostid について詳しく教えてください \(LIC-A-09\)](#)
- [シングル・ライセンスサーバをリダンダント・ライセンスサーバに変更することは可能か \(LIC-A-15\)](#)
- [追加購入したライセンスを以前取得したライセンスと同じライセンスサーバで管理することは可能ですか \(LIC-A-16\)](#)
- [ARM 社の開発ツールは BORROW ライセンスをサポートしますか \(LIC-D-07\)](#)
- [最新バージョンの DS-5 をインストールしたら、ライセンスエラーが発生した \(LIC-E-26\)](#)
- [ライセンスサーバログに DENIED メッセージが残る理由 \(LIC-E-22\)](#)

11. トラブルシューティング

Flex Floating License に関連する問題が発生した場合、発生中の問題をスムーズに診断し、適切な情報を得ることが大切です。

11.1 エラーコードから診断する

- ・ [FLEX Error -1: Cannot find license file](#) (ライセンス ファイルが見つかりません)
- ・ [FLEX Error -5: No such feature exists](#) (該当する機能が存在しません)
- ・ [FLEX Error -8: Invalid \(inconsistent\) license key](#) (無効なライセンスキーまたはシグネチャです)
- ・ [FLEX Error -9: Invalid host. The hostid of this system does not match the hostid specified in the license file](#) (無効なホストです。このシステムのホスト ID は、ライセンスファイルで指定されたホスト ID と一致していません)
- ・ [FLEX Error -10: Feature has expiredfile](#) (ライセンスの使用期限が過ぎています)
- ・ [FLEX Error -21: Application version > License version](#) (ライセンスバージョンよりも新しいバージョンのアプリケーションです)
- ・ [FLEX Error -4: Licensed number of users already reached](#) (ライセンスファイルでは、各コンポーネントに対して一定数の利用枠が規定されています)
- ・ [FLEX Error -15: Cannot connect to license server system](#) (サーバシステムへの接続を確立できませんでした)
- ・ [FLEX Error -18: License server system does not support this featurebr](#) (サーバは、クライアントがチェックアウトを試みた機能をサポートしていません)
- ・ [FLEX Error -25: License server system does not support this version of the feature](#) (サーバは要求された機能をサポートしていますが、機能のバージョンが不適切です)
- ・ [FLEX Error -96: License server machine is down or not responding](#) (サーバマシンがダウンしているか反応しません)
- ・ [FLEX Error -97: The desired vendor daemon is down](#) (ベンダ デーモン (armlmd) は応答しませんでした)

11.2 さらに確認事項

トラブルシューティングで解決できない場合、再度以下項目をご確認ください。

1. ライセンスサーバデーモンのバージョンは最新か

ライセンスサーバのバージョンが古い場合、新しいバージョンのライセンスを認識することができない場合がございます。

2. 環境変数 ARMLMD_LICENSE_FILE"はライセンスファイルの正しい位置を指し示しているか

➤ [環境変数"ARMLMD_LICENSE_FILE"について詳しく教えてください \(LIC-B-03\)](#)

3. FlexNet サーバソフトウェアが正しく起動されているか

以下コマンドをコマンドプロンプトから実行し、認識されているライセンス数が正しく表示されるかご確認ください。

```
> lmutil lmstat -a -c ポート番号@ライセンスサーバのホスト名(または IP アドレス)
```

4. クライアント PC からサーバ PC にアクセスできるか

ping コマンドを発行し、ライセンスサーバにパケットが到達するかを調査してください。

```
> ping servername
```

11.3 サポート問い合わせ

11.1 の項目で確認を行ってもライセンスエラーを復旧できない場合は、弊社 Arm サポートにお問い合わせください。弊社へお問い合わせいただく場合にも以下情報と共にご連絡いただきますと、迅速な解決に役立ちます。

1. お客様情報: 氏名、会社名および部署名、お電話番号
2. 対象製品名およびバージョン
3. 対象製品シリアルナンバー:
4. ライセンスエラー発生時の直前の操作
5. 以下確認事項の結果

➤ **クライアント PC とサーバ PC が正常に通信できるかどうかを判別するために**

クライアント PC / サーバ PC の両方で、コマンドプロンプトを開き、次のように入力した結果をご連絡ください。

```
> Imutil lmstat -a -c ポート番号@ライセンスサーバのホスト名(または IP アドレス)
```

➤ **クライアント側でライセンスをチェックアウトできない理由を判別するために**

クライアント PC 側で、コマンドプロンプトを開き、次のように入力した結果をご連絡ください。

```
>armcc --vsn
```

➤ **FlexNet サーバソフトウェア (Imgrd および / または armlmd) が正常動作しているか判別するために**

サーバで Imutil コマンドが失敗した場合、FLEXnet サーバソフトウェア (Imgrd および / または armlmd) が動作していないと考えられます。

その場合、Windows の場合はタスクマネージャ、Linux の場合は ps コマンドを使用して確認する必要があります。

- ① プロセスをリスト表示した場合、クラッシュ後に滞留した状態のプロセスが残っている可能性があります。通常、サーバソフトウェアの再起動を試みる前に、このような滞留した状態のプロセスを手動で強制終了する必要があります。
- ② 滞留した状態プロセスをすべて強制終了したら、Imgrd ソフトウェアを手動で再起動してみてください。コマンドは、次のとおりです。

```
>Imgrd -c /path/to/license.dat -z
```

- ・ "/path/to/license.dat" の部分は適宜、置き換えてください。
- ・ -z フラグを使用すると、サーバはあらゆるログおよび診断情報をコンソールに出力します。-z を -i <ファイル名> で置き換えると、メッセージの出力先がファイルになります。

この機能は常に必要であるという訳ではありませんが、トラブルシューティング時には役立ちます。